

認知症予防学会と予防専門士・予防専門医の未来



日本認知症予防学会理事

医療法人社団翔洋会 辻内科循環器科歯科クリニック院長 辻 正純

先日仙台で開催された第6回の認知症予防学会のテーマは「グローバル化する認知症～予防と先制医療への時代へ～」でしたが、認知症研究の進歩に伴い、認知症予防はもはや夢の話でなく、現実のものになろうとしています。先制医療の概念は、pre-clical stageでの介入治療という形で進行していますし、生活習慣病への積極的介入は認知症の有病率を下げようとしています。またMCIへの積極的な多因子介入が認知症への悪化を食い止めるとの報告も注目を集めています。

しかし、このような研究は未だ集学的であり、実臨床ではまだ生かされてないのが現状です。認知症予防学会は最新の研究を実際の臨床現場や介護現場に活かすための多職種連携の要になる学会だと私は思っています。2018年には東京で第8回大会が予定されており、私が大会長を拝命し、準備が始まりましたが、認知症予防に関心のある多職種の方が、集まって議論できる大会を目指したいと考えています。

認知症予防学会は2011年4月に会員数380名で発足しましたが、6年目の今大会時には会員数は1440名と発足時の4倍に達しています。また学会の事業として始まった認知症予防専門士の認定者はすでに170名を超え、さらに認知症予防専門医の認定も新たに今年から始まりました。また学会の大きな柱であるエビデンス委員会も岡山大学の阿部教授を中心として始まり、学会のシンポジウムも大きな関心を集めていました。

本論文誌（認知症予防学会誌）には、先端の認知症予防研究のみならず、地域での実践やフィールド研究も掲載して、大きく広がった多職種の学会らしい学会誌になることを切に願っています。